

NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名:「グローバルフェスタ JAPAN2016」での相談対応
2. 出張者氏名:
 - (特活)IVY 阿部真理子
 - (特活)国際協力NGOセンター(JANIC) 伊藤衆子、小泉優子
 - (特活)日本国際ボランティアセンター(JVC) 寺西澄子
 - (特活)開発教育協会 中村絵乃、八木亜紀子
 - (特活)ワールド・ビジョン・ジャパン(WVJ) 今西浩明 松本謡子
 - (特活)アイキャン(ICAN) 山中理恵
 - (公財)PHD 協会 上石景子
 - (公社)日本国際民間協力会(NICCO)福島美樹
 - (特活)AMDA 社会開発機構 山上正道
3. 主催団体名: グローバルフェスタ JAPAN2016 実行委員会
4. 実施日時: 平成 28 年 10 月 1 日(土)、2 日(日)各日 10:00~17:00
5. 実施場所:お台場センタープロムナード(シンボルプロムナード公園内)東京都江東区青海1-2
6. 実施報告

「for the First Step ～新しい目標に向かって～」という開催テーマのもと、一般国民(若い世代からシニア層まで)を対象に、楽しく分かりやすい行事を通じて、来場者に国際協力をより身近なものに感じてもらうと共に、ODA を含む国際協力の現状や必要性、政府と NGO ・市民社会の協力などについての理解と認識を深めてもらうこと、及び、これらを通じて国際協力への参加を促進することを目的として開催されたグローバルフェスタ JAPAN2016 において NGO 相談員 9 団体による相談・質問ブースを設置し、開場時間を通して 2~3 名体制で相談に対応し、来場者の個別相談に応じ、国際協力に関する情報を提供した。

1 日目は雨模様の天気であったが、2 日目には天気に恵まれ、計 118 人からの個別相談に応じ、国際協力や NGO 活動、インターンや就職に関する情報を提供することができた。相談内容は、昨年同様インターン・就職に関することが一番多く、次いで NGO 活動についてが多かった。また、昨年までと違い、ブースの設置位置が人通りの少ない場所であったが、計 262 のブースを 1 件 1 件回り、相談員チラシを手渡しし、相談員制度の周知を図った。

相談者区分、相談内容の件数は以下の通り。

相談者区分		10/1	10/2
1	NGO関係者	15	7
2	教育関係者・教員	2	1
3	学生	27	32
4	行政・政府関係者	0	6
5	マスコミ	0	0
6	企業・労組	1	2
7	会社員・自営業者	7	9
8	その他(職業不明を含む)	3	6
合計件数		55	63

相談内容区分		10/1	10/2
N G O の 設 立 や 組 織 運 営 に 関 す る 問 い 合 わ せ			
1	団体設立・NPO法人格取得	1	1
2	組織運営・マネージメント	8	6
国際協力活動に関する問い合わせ			
3	NGO団体・NGOの活動について	13	18
4	ボランティア・スタディーツアーの参加	3	10
5	インター・就職相談	27	28
6	緊急援助・海外情勢	0	1
7	募金・寄付	0	1
8	国際協力イベント	1	2
9	開発教育・フェアトレード・国際理解	4	4
10	ソーシャルビジネス・BOP・CSR等	0	3
11	ODA政策一般・国際協カスキーム	1	1
12	その他()	3	1
合計件数		61	76

※相談者数と相談内容件数が一致しないのは、相談者一人から複数の内容の相談があったことによる。

7. 所感

今年も関東ブロック以外からのNGO相談員にも出張サービスに参加していただき、多様な経験と事業内容を有する9団体によって、様々なバックグラウンドの来場者からの相談に対応することができた。特に、今年も最も多かった就職相談やインターンの相談には、広範囲な地域で様々な活動をしているNGO相談員が対応できたことは効果的だったと思われる。また、初日は雨模様にもかかわらず、天気のよかった2日目とそれほど変わらない人数の相談者がブースを訪れてくれたことは、この相談業務のニーズがうかがい知れる結果だと思う。ブースの設置が人通りが少ないような位置であったが、昨年並みの相談人数があったことも、この業務へのニーズが高さを示していると思われる。

8. 交通費・宿泊費精算:各参加団体から請求

9. 別添(写真:相談業務の様子)



NGO相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：「東南アジアの地域事情と NGO の国際協力」（形態：講演）
2. 実施者：木村 茂
（特定非営利活動法人日本国際ボランティアセンター・ラオス事業担当）
3. 日時：2016 年 10 月 6 日（木）14 時 20 分～15 時 10 分
4. 場所：市川学園国枝国際ホール（千葉県市川市本北方 2-38-1）
5. 参加者：約 330 名

6. 実施報告：

①概要

◇企画内容：修学旅行で東南アジア地域を訪問する中学生を対象に、タイでの駐在経験、大学教員として同地域のフィールドスタディにも関わった経験をもつ木村 茂（ラオス事業担当）が講演を行なう。

◇目的：駐在経験東南アジア諸国の概況、歴史、文化といった地域事情から、同地域における日本からの国際協力、駐在員の生活など具体的な事例を取り上げ、東南アジア地域を訪れる学生がより有意義な学びを得る礎とする。

◇対象者：中学生

②所感

都市国家シンガポールへの修学旅行を前に、参加する生徒たちの視野を広げるために、東南アジア農村部の状況や NGO の活動についても触れてほしいという教員側からのリクエストが事前にあった。限られた時間の中で、シンガポールとどう結びつけるか、準備にはかなりの時間がかかった。

東南アジアという地域の自然に関する特性、ごく大雑把な歴史、そして NGO の活動と話を進めたが、多少難しくなってしまったかもしれない。講演者が撮影した写真も多用したので、熱帯雨林などの自然や農村があつてのシンガポールの今日であるということ、そうした農村が都市化・近代化の中で環境問題や貧困問題を抱え、そうした分野で国際協力 NGO が活動をしているということについて、ある程度のイメージをもってもらうことはできたのではないかと思う。

最後に日本、その他の国々における木材資源の存在（偏在）とその利用、輸入先などに関するクイズを出した。これには大きな反応があり、私たちのくらしと東南アジアが深く結びついていることについて、よく分かってもらえたことと思う。

以上

7. 別添（写真）



写真：講演のようす

平成 28 年 10 月 14 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

(団体名) 公益財団法人 P H D 協会
理事長 水野 雄二

相談員企画型出張サービス実施報告書

1. 企 画 名 : 「中島中学校にて国際協力とアジアの村についての
講演及び交流」 ※出張形態 : 講演
2. 出 張 者 : 今里 拓哉 ((公財) P H D 協会職員)
3. 実 施 日 : 2016 年 10 月 11 日 (火) 10 : 40 ~ 11 : 30
4. 場 所 : 松山市立中島中学校
(愛媛県松山市長師 817 番地)
5. 対象者 : 中島中学校生徒 38 名
6. 実施報告 :

松山市立中島中学校は愛媛県松山市の港からフェリーで約 1 時間離れた中島という島内唯一の中学校で、全生徒数 38 人である。外国人や異文化と触れ合う機会が決して多くない生徒たちに、国際協力についての講演と、アジアの人々との交流の場を設けた。

内容としてはまず、国際協力について生徒たちがイメージすることを挙げてもらい、そこから話を広げた。「ボランティア」や「青年海外協力隊」といった答えが出たので、中学生が行っているボランティア活動の例や、青年海外協力隊の活動紹介をした。そして ODA など国レベルの国際協力の事例と NGO など民間レベルの国際協力の事例をいくつか紹介した。

次に、多くの国際協力が実施されているアジア地域の農村地帯に触れてもらうため、PHD 協会が招聘しているインドネシア、ミャンマー、ネパールの三カ国の研修生たちと共に、彼女たちの村の写真を見てもらいながら説明した。対象が中学生なので、同世代の子どもたちの生活ぶりを中心に話すように努めた。

最後の質疑応答では「どのような家事手伝いをしていますか?」「宿題はありますか?」「日本と同じような料理はありますか?」などの質問があり、三カ国の研修生たちの答えをわかりやすく伝えた。

7. 添付画像：別紙に当日の様子を2枚添付



① インドネシアにおける地域開発について話している様子



② 中島中学校の皆さんとの記念写真

NGO 相談員出張サービス実施報告書

平成 28 年 10 月 20 日（水）
（特活）関西 NGO 協議会

1. 企画名：立命館宇治高等学校にて、国際協力に関する講演

テーマ：「持続可能な開発目標（SDGs）と NGO の役割」

2. 実施者：
高橋 美和子／（特活）関西 NGO 協議会

3. 日時：
平成 28 年 10 月 14 日金曜日 11：00～16：00
（内出張サービス講演時間 13 時 10～13 時 40 分）

4. 場所：
立命館宇治高等学校
（〒611-0031 京都府宇治市広野町八軒屋谷 33-1）

5. 参加者：
40 名（グローバルスタディ・クラス）

6. 実施報告：

<内容>

「持続可能な開発目標（SDGs）と NGO の役割」をテーマとし、とりわけ地域から国際協力を推進するにあたって、世界的な課題や社会問題に対する加盟団体や当会の活動事例とその成果について講演した。また、若い世代の国際協力への第一歩として、高校生が主体的に取り組むワンフェス for Youth のについて説明を行った。

<所感>

立命館大学の国際関係学部あるいは経済学部への進学がほぼ内定している 3 年生の「グローバルスタディ」クラスでの講演であり、生徒はSDGS をテーマにそれぞれが課題研究に取り組んでいたことから、関心をもって熱心に聴講した。また、生徒からの質問では、「途上国の教育問題は、日本をはじめとする先進国が主導で解決するのではなく、（初等教育であれば）地域住民の参加が必要ではないか」「義務教育など、現地の行政に対する働きかけはどのように行われているのか」といった質問が相次ぎ、途上国の教育問題に関心が高いことがうかがえた。また、高校生が考える国際協力やグローバル課題に対して、「ワンフェス forYouth 高校生のための国際交流・国際協力 EXPO」という取り組みがあり、参加の方法についても質問があり対応した。高校生からは、外務省や JICA などのブース出展について質問があり、ODA 実施機関に対する関心が高いことも窺えた。今後も、高等学校や教員と連携しながら、こうした場づくりを設定し、積極的に国際協力分野における若い世代の関心を醸成し参画の機会を創出したいと考える。

7. 別添（写真）



立命館宇治高等学校 グローバルスタディクラス講演の様子
（出張者：高橋美和子/関西 NGO 協議会）

以上

NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：多文化共生プログラム
2. 実施者：(特活) 沖縄 NGO センター
3. 日時：平成 28 年 10 月 15 日（土）午前 9 時～12 時
4. 場所：沖縄 AMICUS インターナショナルスクール中等部
うるま市栄野比 121-1

5. 参加者：90 名

6. 実施報告：

中学生のブース 18 カ国に分かれて自分たちなりの表現でブース設定を行った。
人を招いてのイベントの注意点として以下をお話した。

①展示物の意味、②参加体験できるブースづくり、③伝えたいテーマ設定
上記のことをふまえ、民族衣装やグッズなどの扱い方などを講義した。

また、沖縄で NGO や JICA が行っている国際協力・交流フェスティバルの
紹介を行い、国際理解・開発教育の視点を併せてお話した。

この中学校の初めての多文化共生イベントであつたらしく、全てが手探りで
あつたが、自分たちで考え、手作り感ある展示および公開イベントになったよ
うに思う。

学校側の担当は、モーリシャス出身の先生で、「日本だから世界中から色んな
研究者や専門的な職業の方々を集める利点もあり、生徒たちはいきいきとその
学校にいる先生方の国紹介をしていた。全てが完璧ではなかったが、初めの良
い一歩が出来たので専門的な知識やアイディアの知恵を下さったことに感謝し
たい」というコメントをいただいた。

7. 写真



外務省 NGO 相談員 出張サービス報告書

相談員 公益社団法人 日本国際民間協力会（NICCO）

<概要>

企 画 名：『青年海外協力隊・シニア海外ボランティア/秋募集説明会』における NGO 相談員ブース出展

イベントの種類：相談対応サービス

実施日時：平成 28 年 10 月 16 日（土） 10 時 30 分～16 時 30 分

出張者氏名：大豊 盛重

主催団体名：

独立行政法人 国際協力機構 関西センター（JICA 関西）

公益社団法人 青年海外協力協会 近畿支部

場 所：フェリエ南草津 5 階 市民交流プラザ

〒525-0059 草津市野路一丁目 15 番 5 号

<実施内容>

滋賀県のフェリエ南草津 5 階市民交流プラザにて、「青年海外協力隊・シニア海外ボランティア/秋募集説明会」が開催され、国際協力や平和構築に関心のある学生や社会人、シニア層が約 60 名来場した。

当会は、NGO相談員コーナーを設置し、国際協力やNGO全般に関する相談を受け付けた。学生からシニア層まで幅広い年齢層の参加者が、積極的に相談員ブースを利用していた。

<集客人数または相談対応件数>

8 名 8 件

<所感及び効果等>

滋賀県の国際協力に関心の高い学生と社会人、シニア層が、NGO相談員コーナーを利用した。シニアは自身のキャリアを活かした国際協力への携わり方等についての相談が多かった。青年海外協力隊の応募を考えている参加者は応募という明確な目的をもって来ているが、NGOの活動に関心がある方もいた。青年海外協力隊の派遣期間は2年間ということもあり、短い期間で国際協力に参加したいという参加者もいた。国内で参加できるボランティアやインターン制度を設けているNGOを紹介するなど、情報提供を行った。また、開催挨拶時には国際協力分野でのNGOの役割や現地での青年海外協力隊とNGOの交流や勉強会について説明した。

<活動風景（写真記録）>



相談対応の様子。説明会終了後にブースを利用する方が多かった。

NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：第 12 回地球まつり
2. 実施者：池田 誠
3. 日時：平成 28 年 10 月 22 日(土) 10 時 00 分～15 時 00 分
4. 場所：函館市青年センター（函館市千代台町 27 番 5 号）
5. 参加者：500 名
6. 実施報告：

①内容：

- ・ NGO 相談ブースでの相談対応 10：00～15：00

国際交流団体や、大学生や教員など関心のある人の他、土曜日開催ということもあり、会社員や行政職員の方から多く関心を寄せていただき、国際協力への関心を高めることができた。特に、NGO・NPO の団体運営についての関心が高く、参加している国際協力団体へのリファール（取次）も行うことができた。

- ・ 国際シンポジウムにおける NGO 相談員制度の紹介 12：30～13：30

海外ボランティア、留学、JICA 青年海外協力隊などの活動を紹介するシンポジウムで、NGO 相談員制度について広く知ってもらうことができた。

- ### ②所感：
- 初めてシンポジウムと相談窓口を開設したが、家族連れで参加する人たちも見受けられ、幅広い層に対して、国際協力に対する関心を高めることができた。地球まつりのブース参加者からは、今後も、様々なイベントに出展してほしいとの依頼も多く受けた。今後はさらに、国際協力の広報に力をいれながら、いろいろなイベントにも参加してゆきたい。

7. 別添（写真）



2016年 11 月 1 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長殿

特定非営利活動法人名古屋NGOセンター
理事長 西井和裕

NGO相談員による出張サービス実施報告書

NGO相談員による出張サービスを実施いたしましたので、下記の通りご報告致します。

記

1) 企画名：ワールド・コラボ・フェスタ2016

【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・その他】

出張者氏名：（特活）名古屋NGOセンター村山佳江、（特活）アイキャン吉田文

2) 主催：ワールド・コラボ・フェスタ実行委員会

3) 催しの概況：

（i）実施日：2016年10月22日（土）・23日（日）両日とも10時00分～18時00分

（ii）場所：オアシス21「銀河の広場」（名古屋市東区東桜一丁目11番1号）

（iii）相談対応件数：45件 ※10/22 名古屋NGOセンター24件 10/23 アイキャン21件

（iv）企画概要：中部地区最大の国際交流・協カイベント（2日間の来場者約8万人）において、名古屋NGOセンター（10/22）とアイキャン（10/23）が出展し、来場者や他の出展団体への相談対応業務を行った。

（v）所感及び効果等

●名古屋 NGO センター

当イベントの初日は晴天となり、来場者がたくさん訪れました。相談員ブースにおいても多くの相談に対応しました。来場者の中には、一つでも多くの情報を得たいといった非常に積極的な方も参加されています。今年は学生からの相談に多く対応することができました。複数の大学の先生が、ワールド・コラボ・フェスタをフィールドワークの一つに指定し、学生にフェスタを活用してNGOについて調べたり情報を得たりするよう、すすめて下さっていることがわかりました。

中部地域最大級のイベントにブースを設置し、NGO 相談員の存在を多くの方に知っていただくことができましたと思います。相談対応においても、相談者の関心に沿って今後行われる各種セミナー等の情報や、引き続き当事務所にて相談対応が可能であることをお伝えし、今後につながる対応をすることが出来たと思います。

●アイキャン

学校の授業で国際協力やNGO活動について学んでいる学生が目立ち、NGOの設立や活動資金集めについて、NGOの職員であることのやりがいや苦労等の質問を数多く受けました。また、NGOにボランティアとして関わる社会人や大学院で開発学を学ぶ学生からは就職・転職の相談を受けました。その他、シニア海外協力隊について、NGOの会計の仕組み、自分の関心分野に合ったNGO・NPO団体の見つけ方等幅広い質問を受け付けました。来場者は全体的に国際協力への関心が高く、ただ現状を知るだけでなく具

体的に自分にできることを探そうという姿勢が目立っていました。具体的な提案や助言、他団体の紹介等を行ったことで、相談者が一歩踏み出せるよう後押しし、中部地域の NGO 活動の活性化に貢献できたと感じています。

■主な相談内容

- ・ 会社員。NGO の求人について情報がほしい。
- ・ 会社員。NGO の海外の現場に行きたいがどうしたらいいか。
- ・ 会社員。東京から来場したが、東京で国際協力について相談対応できる NGO を教えてほしい。
- ・ 学生。大学の授業で調べていて、NGO について詳しく知りたい。
- ・ 学生。NGO で海外ボランティアをするにはどうしたらいいか。
- ・ 学生。現在、国際協力サークルで活動しているが、将来の参考として NGO 職員の待遇が知りたい。
- ・ NGO。職員を募集したい。誰か適任の方を紹介してほしい。
- ・ NGO への転職に関する相談

転職に必要なスキル、今からのキャリアの積み方、研修の有無や職員の過去の経歴等

- ・ NGO の運営全般に関する質問

資金調達の方法、職員の給与の出どころ、プロジェクト地域の選定方法、プロジェクト計画の立て方、会計の仕組みについて等

<写真>

●名古屋 NGO センター



●アイキャン



以上

NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：地球の環境と平和のためにできること
～モザンビークの事例と一緒に考えよう！～
【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・その他（ワークショップ）】
2. 実施者：竹内 よし子（特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク）
3. 日時：平成 28 年 10 月 24 日（月）14：00～15：35
4. 場所：南国市立日章小学校（高知県南国市田村乙 2267-1）
5. 参加者：小学校 6 年生 33 名、教員 4 名
6. 実施報告：「地球の環境と平和」をテーマに、当団体が行っているモザンビークでの国際協力活動・平和構築活動を事例にあげつつ、実際の国際協力活動が地球の環境問題の解決や平和な社会づくりのためにいかに重要であるか考えるため、講演を行った。さらに、自分たちが地域でできることは何かを考え、できることから実践することの大切さを伝え、児童全員が感想を共有した。また、本小学校ではこれまでに国際協力活動について学ぶ機会がなかったため、教員には冊子「四国・国際協力活動と ODA」を提供し、四国で行っている具体的な国際協力活動について情報提供を行うとともに、本制度の相談対応、出張サービスなどの活用促進につながるよう制度の紹介と広報を行った。

【主な対応内容】

- | | |
|-------|---|
| ①相談内容 | 自分たちも関われる活動の中でも、モザンビークの子どもたちと交流するにはどのような方法があるか。 |
| 対 応 | モザンビークの子どもたちの遊びを紹介し、日本の大縄跳びの遊び方を映像に撮って現地の子どもたちに紹介してはどうかと提案したところ、後日、本授業を聞いた児童が大縄跳びをしている様子のビデオを当団体宛てに郵送するなど、自分たちにできることをすぐに実践に移していた。国際協力・交流に対する児童・教員の興味・関心の高さを確認し、引き続き可能な範囲でサポートしていくこととした。 |

7. 別添（写真）



相談員制度について紹介



武器アート作品に触れる生徒

8. 備考：今回の出張サービス実施後、昨年度出張サービスを行った高知市立旭小学校を訪問し、担当教員と面談することができた。昨年度、グローバルローカルかるたを作成する際に本小学校より協力を得たため、完成したかるたを持参し説明・フォローアップを行った。また、前回の授業後の取り組みや、今後の学びのつなげかたについて意見交換を行った。

NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：講演会 「世界の問題と子どもたち」
2. 実施者：山梨県立山梨高等学校
3. 日時：2016 年 10 月 25 日（火）14:30-15:20
4. 場所：山梨高等学校 山梨県山梨市上神内川 194
5. 参加者：高校 3 年生 182 名、教諭 6 名
6. 実施報告：

NGO 相談員として、途上国の子どもたちを取り巻く課題について、写真と動画を交えて紹介し、世界に目を向けるきっかけを提供した。国際協力の取り組みの中で出会った子どもたちのケースストーリーを紹介し、ワークシートを使って高校生一人ひとりの行動が途上国の子どもたちにどのような影響を及ぼすか、意見をまとめた。動画やワークシートで途上国の子どもたちを取り巻く課題を具体的に紹介することにより、国際協力へ理解を深める機会としてもらうことができたのではないかと考える。さらに、NGO で働くことや国際協力の仕事についても紹介し高校 3 年生がこれからの進路選択で参考になるよう言及した。全体を通して、高校生が世界とのつながりを実感し、国際協力を身近に捉え、ともに生きる姿勢を育むことにつながることを願っている。

7. 所感：

NGO 相談員が途上国の子どもたちを取り巻く課題について実際に会った子どものケースストーリーを紹介することにより、リアルに途上国の子どもを取り巻く課題を伝えることができ、真剣に耳を傾けてくださる生徒の皆さんの姿を嬉しく思った。ワークシートでは自分がどのような行動を取るか、子どもに及ぼす影響を将来的な視点を持って考えてくれていた様子が見受けられた。また、高校生からの感想として「自分の日常とあまりにも違い、ショックを受けた」「自分の行動が及ぼす影響を軽く考えていた」等が寄せられた。

8. 別添（写真）

写真や動画を交えて途上国の子どもたちを取り巻く課題について紹介。ワークシートで自分の行動が子どもに及ぼす影響を考えた



NGO 相談員出張サービス実施報告書

2. 企画名：講演会 「助けを必要とする世界のこども達」

2. 実施者：モンタナ幼稚園

3. 日時：2016 年 10 月 31 日（月）10:30-11:00

4. 場所：神奈川県鎌倉市津 550

5. 参加者：3, 4, 5, 6 歳園児 155 名、幼稚園教諭 7 名

6. 実施報告：

NGO相談員として、途上国の子どもたちを取り巻く課題について、大きな写真紙芝居を使って紹介した。栄養のある食事が十分にできないこと、安全な水を使えないこと等を具体的に紹介し、幼稚園児の皆さんの日常とどのような違いがあるか、また、厳しい環境に生きる途上国の子どもたちがどのような思いで過ごしているかに思いを馳せるように促した。帰宅後に保護者とともに途上国の子どもたちを取り巻く課題について話し合うことができるよう配布資料を用意した。5歳の女の子から栄養不良の子どもの様子について質問が寄せられた。

7. 所感：

大きな写真紙芝居を使用することにより、未就学児の皆さんに関心を持って話を聞いてもらうことができた。また、途上国の子どもたちへ手を差し伸べる姿勢や幼稚園児の皆さん自身の不自由な日常をふり返ることができたと思う。このような機会を通して、日本に住む子どもたちが幼い頃から世界に目を向け、多様性の理解と共に生きる姿勢を身に着けることは有意義な機会であると思われる。後日複数の保護者から感想が寄せられ、幼稚園で国際協力に関するプログラムを実施することは素晴らしいとの声があった。保護者向けプログラム実施のリクエストも寄せられた。大きな写真紙芝居で伝えた内容が子どもたちの中に残り、これからの歩みにつながっていくことを願っている。

8. 別添（写真）

大きな写真紙芝居で途上国の子どもたちの生活を紹介。地球儀ビーチボールで日本とアフリカの位置関係を示した。



平成 28 年 11 月 7 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

(特活)国際協力 NGO センター
理事長 谷山博史 印

NGO相談員による出張サービス実施の報告

NGO相談員による出張サービスを下記の通り実施いたしましたので、ご報告申し上げます。

記

1. 企画名:「国際協力キャリアフェア 2016」での相談対応
2. 出張者氏名:松尾沢子、山田直樹
3. 主催団体名:国際開発ジャーナル社
4. 実施日時: 2016 年 10 月 29 日(土) 10 時 00 分～17 時 00 分
5. 実施場所:TKP 赤坂カンファレンスセンター
(東京都港区 赤坂 2-14-27 国際新赤坂ビル東館)

6. 実施内容と効果・所感

1)実施内容

国際協力キャリアフェアは、国際協力業界での就職・転職を希望する一般来場者を対象に開催されており、当日は政府機関、国際機関、企業、教育機関(大学・大学院・留学)、NGO など約 30 団体が出展、来場者数約 320 名に対応をした。

当センターは相談員ブースに常時合計 2 名を配置し、国際協力の分野への就職・転職に関する相談対応を実施した。相談員ブースとは別会場で開催の各種セミナー終了時などは、多くのセミナー参加者が相談員ブースへ移動し、対応をお待ちいただく時間帯もあった。以下、対応詳細。

- ・ 相談対応件数:22 件
- ・ 主な相談者層:学生、社会人(社会人が過半数)
- ・ 主な相談内容:
 - NGO の活動に参加したいがどうやって参加すればよいか、探し方等
 - NGO の就職・インターンに関してどういった団体が募集しているのか
 - NGO の概要や組織についての質問

2) 所感

- ・ 相談に来られる方には、「国際協力関連はどのような職種があるのか」と、NGOに限らず概要を知りたいという方も多く、国際協力に関わるアクターが NGO だけでなく、政府、国連、企業等のさまざまであること、その中での NGO の特色を伝え、またそれらが協働関係を持って活動している状況を積極的に伝えるように心がけた。国際協力についての基本的な情報について、広く市民に知っていただける機会となった。
- ・ 例年は学生からの相談が多かったが、本年度は社会人から NGO の概要や NGO への関わり方、NGO への転職情報などの相談を受ける機会が多く、社会人の中でも NGO に対する関心が高まっている事が認識でき、情報を伝える事ができた。
- ・ 今後も継続的に本イベントのような場で、NGO・国際協力分野で働きたいという一般市民の相談に対応することにより、国際協力についての情報を伝えることは、本出張サービスの重要な役割と言える。

7. 交通費精算:月次請求

相談対応の様子



以上

平成 28 年 11 月 10 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人アイキャン
代表理事 田口 京子

NGO 相談員出張サービス実施報告書

NGO 相談員による出張サービスを実施いたしましたので、下記の通りご報告致します。

記

1. 企画名：「多文化共生フェスティバル in 可児 2016」における出張相談対応
(形態：相談対応サービス)
2. 実施者：(特活) アイキャン 中村由実子
3. 日時：2016 年 10 月 30 日(日) 10:00～15:00
4. 場所：可児市多文化共生センター FREVIA (岐阜県可児市下恵土 1185-7)
5. 対応件数：16 件
6. 実施報告：

可児市国際交流協会が主催する「多文化共生フェスティバル 2016」において、相談員ブースを設置し、相談対応業務を行った。国際協力よりも異文化交流に関心がある日本人や、在日外国人の方の来場が多かったが、その中でも、「NGO に就職したいが、育児をしながらできることはあるか」という主婦や、「アジアの途上国で働きたいと考えている。日本でできることから始めたいが、どうしたらよいか」という会社員などが相談に来られた。ブースが音楽ステージの観客席のすぐ後ろにあり、あまり落ち着いて話ができる環境ではなかったため、会場全体を度々回り、他の出展者等にも相談員のチラシを持って声をかけ、NGO の活動や相談員について紹介をした。NGO への就職など、関心が高い層と、NGO を全く知らない層の両方に、アプローチができたと感じている。また、主催の国際交流協会の方とも話をし、市民からどのような相談が多いかなどの状況を伺うこともできた。

7. 写真



相談ブースでの対応の様子



会場を回り、話をする様子

以上

NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：国際協力フェスタ 地球市民どんたく（形態：相談対応サービス）
2. 実施者：（特活）NGO 福岡ネットワーク
3. 日時：2016 年 10 月 30 日（日）10 時 00 分～16 時 00 分
4. 場所：天神中央公園（福岡県福岡市中央区天神 1 丁目）
5. 参加者：約 500 名
6. 実施報告：

本イベントは国際協力・国際交流に取り組む NGO が、パネル・写真・民芸品等の展示により市民に各団体の活動を紹介するとともに、団体の活動発表や国際理解ワークショップなどを行うものである。当団体は国際協力に関心のある人たちからの質問や相談に対して、様々な情報提供やアドバイスを行うことで、疑問・悩みを解消し、国際協力に関する理解を深めてもらい、活動へ参加するきっかけをつくることを目的にブース出展を行った。

来場者は国際協力に関心を持っている人が多いため、当団体の新しいパンフレットを紹介しながら国際協力に関わる行動の後押しに努めた。ブースでは、「NGO は具体的にどんな活動をしているのか」「NGO の仕事はどんなことをしているのか」といった質問への回答や相談に応じた。また、特に関心のない市民も通るため、展示した海外の楽器や写真等を活用して興味を引き付けることでブース訪問のきっかけ作りに取り組んだ。これにより子どもがブースを立ち寄る機会が増加し、子どもが遊ぶ合間に両親へ国際協力に関するアンケートの実施や、写真の紹介等を行うことができた。

こちらから働きかけなければ素通りしていたであろう市民でも、話を聞くと国際協力や海外への関心を持っていることが判明し、相談や紹介へ繋げることができたことは大きな成果だと感じている。ブース出展型イベントの成果を格段に上げるヒントを得ることができた機会となった。

7. 別添（写真）



相談対応の様子



海外の楽器を使って子どもと触れ合う